

資料ふあいる

アーカイブズ学における大学院課程の指針⁽¹⁾

Guidelines for a Graduate Program in Archival Studies

アメリカ・アーキビスト協会(2002年1月)*

訳：保坂 裕興**

Hirooki HOSAKA

アーキビストは、記録史料となる記録や書類の識別、選別、保護、組織化、そして記述について、そして最終的にそれらを利用者の誰にでも使いやすくすることについて責任をもつ専門家である。⁽²⁾ 文書館資料を体系的な方法で特定し、保存し、そして使用できるようにすることを確実にして、アーキビストは社会の文化遺産の保護をうち立て、法律上の権利と特権を守り、そして幅広い機関の効果的な管理運営に貢献する。注意深く記録を選択しなければ、私たちの社会の、文化の、機関の、そして個人の遺産は失われるだろう。法律関係書類を保存しなければ、個人のそして機関の権利を保持し守ることはできない。そして行政文書の適切な管理なくして、政府や組織は責任あるものにならないのである。文書館は、このように民主的で成熟した社会において欠くことができないのである。

アーカイブズ学課程は、1994年に以前のアメリカ・アーキビスト協会教育指針を公表して以来、増加し成熟してきた。ここに示した指針は、アーカイブズ学の大学院課程が評価される基準として実際に機能を果たすものである。これらの指針は、アーカイブズ学教育課程の使命、教科課程、教授団、そして構造的基盤について最低限の基準を定めている。

これらの指針は、アーカイブズ学独自の学位を与える、あるいは与えないアーカイブズ学大学院課程にとって、多くの適切な場があることを認識している。アーカイブズ学の教育課程は、伝統的に歴史学と図書館学の両方の環境の中に位置づけられてきた。指針は、独自の課程の中で可能な重点化あるいは専門化が変化に富むことだけでなく、このアーカイブズ学課程の制度上の拠点の多様性をも奨励する。さらにこれらの指針は、アーカイブズ専門職の唯一性、自主性そして独立性を強調する課程のほかに、より学際的であり、アーキビストと他の専門職との関係や相互依存を強調する課程をも支援することを目的としている。

これらの指針の最終目的は、アーカイブズ学大学院課程の質を、とりわけ学生や大学に最低限期待されることを掲げることによって改善することである。アーカイブズ学課程の最低基準としてこれらの基礎的指針をうち立てることによって、SAA はまた、より広範囲にわたるより包括的な課程の継続的な開発を奨励すること、そしてそうすることによって、アーキビストをより良く教育し、専門的職業を改善することを期待するものである。⁽³⁾

*アメリカ・アーキビスト協会：1936年に設立されたアーカイブズ専門職の協会。<http://www.archivists.org/>

**ほさか ひろおき：駿河台大学文化情報学部。アーカイブズ学・歴史学。

I. アーカイブズ教育：使命と目標

アーカイブズ学におけるどのような大学院課程も、その使命、目標、そして目的を明確にしなければならない。たとえば、ある課程はアーカイブズ管理の全領域の知識をもった万能家を育てることしか追求しないかもしれない。他の課程ではまた、電子記録管理、歴史文書、あるいは機関の記録史料管理のような、アーカイブズ管理の一つかそれ以上の領域における専門家を育てることをも求めるかもしれない。さらに他の課程では、たとえば図書館、文書館、そして博物館の専門家をつなぐ学際的な研究を強調するかもしれない。しかし、アーカイブズ学課程（より専門的な歴史文書学課程、あるいはより一般的な情報科学課程に対して）としての資格を得るために、その教科課程は、専門化あるいは学際的関係の基礎として、中核となるアーカイブズ知識の領域を重点的に取り扱うべきである。

課程の使命、目標、そして目的は、その課程が達成することを求める教育の結果の観点から述べられるべきであり、所属組織の使命や文化に合致しているべきである。⁽⁴⁾ それらは、その課程が役割を果たすことを求める支持者を巻き込む、幅広く基礎をもつ立案過程を通して、開発されるべきである。教科課程は、これらの課程の目的を表明すべきであり、専門的な関心や問題点を発展させることに基礎をおいて、継続的に精査され、そして評価されるべきである。組織上の位置づけに関わりなく、大学院修士レベルのアーカイブズ学課程は、首尾一貫し、結合性があり、特定可能なものであるべきである。

文書館の仕事の重要さと複雑さゆえに、専門職につく一人一人は確固たる大学院レベルのアーカイブズ教育を受けていることが求められる。そしてそれは、中核的なアーカイブズの知識に基づいていなければならない。アーカイブズの知識は、しかし、歴史学、社

会学、文化人類学、経済学、そしてあるいは図書館情報学のような他の学問分野から引き出される知識によって補完されなければならない。学生が文書館の仕事をこなすために必要な教育を受けるため、アーカイブズ学において十全に開発された大学院課程は、次の目的を達成する教科課程を構築しなければならない。

- アーカイブズ学の理論、方法、そして実践において、そしてそれらの学問分野の学識において、確固たる基礎を学生に与える
- 学生に他の関連学問分野からの知識を受け入れる機会を与えることによって、この基礎を強化する
- より大きな文化遺産の一部としての記録や書類のために、学生が批判的思考や意志決定能力を発展させることを支援する
- 彼ら自身の学問分野を豊かにし、発展させるために、学生が学術研究をすすめ、発表するように準備する、そして、
- 学生に専門的、社会的な責任感と、彼らの仕事の倫理的、法的な面の知識を繰り返し教え込む

アーカイブズの訓練とは対照的に、大学院のアーカイブズ教育は学術的であり、かつ専門的である。それゆえ、本来の研究と経験的な学習の両方を含んでいる。最終的なところ、アーカイブズ教育は、学生が彼らの専門的職業に基づいている考え方を理解し、アーカイブズの原理の発展に従事し、そして多種多様な背景の中でこの知識を適用できるようにする、知的枠組みを創り出す。一方、アーカイブズの訓練は、複製可能な型に従って技能を確立したり、実践的な知識を受け入れたりすること、あるいは特定領域における専門化を発展させることに重点をおく。

アーカイブズ学課程の卒業生は、アーカイブズの原理と技法についての十分な知識と理

解を持つべきであり、全ての基本的な文書館機能を実行するにあたって、自主的に仕事ができるように育成されるべきである。⁵⁾ 機関の位置づけや記録史料となる記録・書類の多様性と複雑性は、アーカイブズの理論とその実践的適用について幅広く、包括的に理解することを要求するのである。

どのような学問分野の大学院課程も、その実践者に必要とされる全ての学術的かつ経験的な知識を用意することはできない。しかし、専門職気質の特性を学生に教え込むことによって、大学院課程は、専門職教育が一般に認められた考えや方法を疑ったり、広く受け入れられた知恵を見直したり、専門的な標準を開発したりすることを含め、一生涯にわたる取り組みであることを、学生に気づかせることができるのである。

これらの指針はそれゆえ、制度上の位置づけや授与される学位とは無関係に、修士レベルの大学院アーカイブズ教育の必須要素に照準を合わせる。そのような課程のための多数の選択肢は、修士課程が独自の強調点を発展させたり、さまざまな専門化を用意したりすることを可能にする、豊かな多様性を提供する。他の学問分野からの学際的な知識は、幅広い必要性和関心に適合するように、アーカイブズ教科課程を豊かにし拡充する。これが学生に教育の選択を提供するかぎり、そのような課程は全て、アーカイブズ知識の必修科目に重点を置くべきなのである。

II. 教科課程

アーカイブズ学における大学院課程は、学生にアーカイブズ学の確固たる基礎を提供すべきである。教科課程は、行政学、法律学、経済学、歴史学、管理学、そして情報学がアーカイブズの仕事に関連しているので、それらの教育によって増強されるアーカイブズの理論、方法論そして実践に重点をおくべきであ

る。これらの関連する領域の研究は、アーカイブズの本質と、これらの領域の方法と観点が専門職の文書館活動に貢献する方法の理解を通して知らされるべきである。

学生が大学院アーカイブズ教育の一環として修得すべき一連の知識は、中核となるアーカイブズの知識と学際的知識の両方からなる。

- 中核となるアーカイブズの知識は、専門職アーキビストとしての活動に必要な理論的、実践的基礎を提供する。
- 学際的知識は、学生に他の学問分野、すなわち文書館活動の理解を深めることになる知識を紹介する。学際的知識はまた、学生が、文書館活動の特定の局面で専門化すること、あるいは本当に学際的な状況において役割を果たすことをも可能にする。

大学院課程の授業期間には18学期単位時間が、分野ごとに、中核たるアーカイブズ知識として規定されるべきである。大学院課程の制度と学生の要求に基づくべきであるので、その残りの単位は学際的知識におけるものであってもよい。研究は教科課程全体にわたって統合されるべきであり、そしてどの課程の重要な要素も結果として学術論文あるいは学位論文になるような独自の研究プロジェクトであるべきである。課程はまた、実習科目や実務研修のような実際の経験をも含むべきである。

A. 中核となるアーカイブズの知識

論理的根拠：

専門職のアイデンティティは、それに排他的に属する一連の知識と、共通の歴史、統一の目的、共通の語彙、そして集合的な価値、規範、標準から生じる専門職の文化に基礎づけられる。アーカイブズの中核的知識は、アー

カイズ学課程の核心である。それは教科課程において支配的な地位を占めるべきであり、そして専門職アーキビスト、あるいは保存のような専門的な話題については技術的専門家によって、教えられるべきである。中核となるアーカイブズの知識は、三つに分かれながらも相互に関連したアーカイブズ学の面を包含している。**文書館機能の知識**（文書館の仕事の独自の領域に関連する理論と方法論）；**専門職の知識**（専門職の歴史と文書館活動の発展）；そして**脈絡的知識**（記録が作られ、管理され、保管される内側の状況）。アーカイブズの知識と専門職の文化は、地理的、国家的な境界を越えるのであり、構成要素のそれぞれは、国際的そして多文化的見通しを組み込むべきである。

構成要素：

1. 文書館機能の知識

アーカイブズ教育では、次に関する基本概念について教えるべきである：記録史料の性質、記録と書類、そして文書館機能（アーカイブズの理論）；文書館の機能を実行する技法（文書館の方法論）；そして文書館施設における理論と方法の実施（文書館の実践）。教育指導は文書館の理論と方法の歴史、そしてそれらの学術文献における表現に及ぶべきである（アーカイブズの学識）。アーカイブズ教育の範囲は、文書館業務の機能を含むべきであり、現在の最も良い実践と、関連する管理上の問題点の両方について扱うべきである。

a) **評価と取得**：アーキビストが、記録作成者、機関、研究者、そして社会にとって永続的な価値を持つ全ての形式の記録と書類を識別、評価、取得、認証するために使う理論、方策、そして手順。評価は、中でも、何が記録と書類を団体、個人、法律上のそして財政上の当局、そして他の構成員にとって真正で信頼でき、そして役に立つものになっているかについての理解を必要とする。

b) **編成と記述**：アーカイブズ学原理と親機関の検討による、全ての媒体と形式における文書館の記録と書類の知的そして物理的な組織化、および資料の制御とアクセスを提供する記述の手段とシステムの開発。理論は、教育方法と技術の適用によって、実践に結びつくべきである。

c) **保存**：全ての形式の記録・書類の物理的保護、再フォーマット（たとえば、デジタル化あるいはマイクロフィルム化）を通した記録・書類の知的保存、そして研究者たちによる継続的利用を保証すること確実にする管理的活動の集約と実施。保存の知識は、次のことに基礎をおく：保存の歴史における堅固な基盤；資料と取り扱いの性質についての研究；現在の技法；そして管理研究と管理上の問題点。保存もまた、保存手段を講じる以前に、評価基準を系統的に適用することが必要になる。

d) **レファレンスとアクセス**：さまざまな利用者集団の情報ニーズにこたえるために設計された方策と手順の開発。それは、機関の使命と利用者による評価、資料の性質、関連法と倫理上の考慮、そして適切な技法に基礎をおく。教育指導はまた、利用者行動の研究とレファレンス過程におけるアーキビストと利用者の相互作用をも含めるべきである。

e) **普及と唱導**：アーキビストがアーカイブズの利用者やそのニーズを評価したり、利用拡大、資源、認知度、そして支援を増進させるプログラムを開発したりするために使う理論と実践。

f) **管理と執行**：アーキビストが、その施設と機関の資源についての綿密な計画と執行を通して、文書館業務の全ての状況を容易にするために必要な理論と実践。全ての職業レベルで、アーキビストは、資源を管理し、組織管理、システム分析、事業立案、予算編成、

資金集め、助成金獲得法、人的資源、および建物、施設、設備の管理を十分に理解していなければならない決定を行う。

2. 専門職の知識

アーカイブズ教育は、学生に専門職が発展させてきた方法と専門職のうちの特定の業務の進化について理解させるべきである。それは、アーカイブズ施設の性質、アーキビストが業務に適用する価値観と倫理観、そしてアーキビストが情報専門職に寄与する観点について、学生に教えるべきである。アーカイブズの記録・書類は、それらの作成、保存、そして使用の状況から理解されなければならない。学生は、日常の業務において、そして生涯の職業全体にわたり独創的に思考し活動するために必要な知識を得て卒業するべきである。

a) 文書館とアーカイブズ専門職の歴史：アーカイブズ学における大学院課程は、古代世界から現代までの範囲で、記録作成・記録管理のシステムと、さまざまな文明における文書館についての歴史的発展について教えるべきである。この教育指導は次の範囲にわたる。一般に全体的な見直しからの、そして特に北アメリカに関連したアーカイブズの団体／専門職の体制；アメリカ合衆国とカナダにおける、方針と手順とともに現存の文書館施設と事業の種類；そしてアメリカ合衆国とカナダにおいて文書館を統制し、文書館業務に影響を与える法律と規則。教育指導では、アーカイブズ専門職の歴史；その使命、役割、価値観；そして専門職の現在の関心事項についても扱うべきである。

b) 記録と文化記憶：記録と書類は、個人や社会の書かれた記憶の重要な一部を構成し、政府や組織を説明可能なものにし、個人の権利を守ったりするための基礎を与える。文書館施設はこのように社会の中で重要な役割を果たす。しかし、それらは文化記憶の織

物の一部でしかない。アーキビストと文書館は、他の専門職および図書館や博物館のような施設と協力し、文化記憶を保存し利用できるようにするために、そして説明責任を保証するために活動する。学生は、文書館と他の文化遺産の管理者たちの相互関係と、記録がその遺産に資する方法について理解するべきである。

c) 倫理と価値観：アーカイブズ専門職は、その倫理と価値観の体系の基礎を、アーキビストが責任を持つ記録・書類および情報資源を識別し、保存し、保護し、使えるようにすることに關するアーキビストの責務に置いている。学生は、SAA 倫理綱領、その基礎となる原則と考え方、そして他の文書館および情報専門職の規約との関連に精通すべきである。学生は、専門職の倫理と価値観がどのように判断に影響を与えるのかということ、そして倫理と価値観を彼らの業務に適用する方法を理解するべきである。

3. 脈絡的知識

全てのアーキビストは、記録が作成され保存される内側の状況と、管理と技術の理論をしっかりと理解し、いつも文書館業務に活かすように行動すべきである。この知識は、日常的な活動に適用できる十分に役立つ知識を育てるために、中核的教科課程の当てはまる所に取り込まれるべきである。これらの知識領域のいくつかはまた、彼ら自身の力で学問分野としてより十分に研究されるかもしれない（そしてこのように、以下には学際的知識のもとに揚げられてもいるのである）。

a) 社会的そして文化的システム：社会的そして文化的システムの知識は、二つの意味で重要である。第一に、アーキビストは、記録と書類が作成され、維持され、そして使われる際の状況を形成している機関の構造とシステムを理解しなければならない。かれらはまた、社会的・文化的システムにおける記録管

理の意味合い、そして説明責任を全うするため全ての公的そして私的な機関によって用いられる組織の構造と手続きについても理解するべきである。第二に、アーキビストは制度上の脈絡の中で活動している。記録と書類の効果的な管理には、機関の内部における政治的、社会的、そして経済的な力学、そしてアーカイブズ保存施設の目標と目的を成し遂げる方法を知ることが必要である。

b) 法的そして財政的システム：機関と個人の両方の記録・書類および記録管理システムは、それらが作成された法的そして財政的システムを反映し、そして組織的または個人的な説明責任を明示する。アーカイブズの中核的知識は、規制上の環境だけでなく、連邦、州、そして地方の法令をも含みながら、法的そして財政的システムの起源、発達、構造、そして働きを包める。これは、個人的な記録・書類の案件などへの影響だけでなく、公共・民間両部門の法域を含むべきである。法律問題の知識はまた、プライバシーの権利、情報の自由、そして記録・書類に関連した財産権と著作権をも含む。

c) 記録と情報の管理：全ライフサイクル、すなわち発生から最終的なアーカイブズでの保存あるいは他の処理にわたる、記録と情報の管理に関わる原理。アーキビストの仕事は記録・情報管理者の職責と密接に関連し、そして何かの制度上の環境においてそれぞれの職務は一つの機能のなかに混ぜ合わされることがある。アーキビストは、機関の構造、意志決定、そして記録管理システムを分析し、その知識を他の文書館機能に関する解決に適用できなければならない。

d) デジタル記録とアクセス・システム：アーキビストは、アーカイブズの知識をどのような形式の記録・書類にも適用する力をもつべきである。アーカイブズの知識の全ての領域において、しっかりした専門職の教育は、

デジタルの記録・書類の性質、アクセス問題、そして保存の課題についての理解を組み込んでいる必要がある。これは、新しい媒体形式や記録文書の分野の開発、そして記録・書類の作成、維持、そして使用のための変化している情報技術についての情報を含むべきである。加えて、教育課程は、学生が記録・書類へのアクセス・システムを使用し、開発すること、そして文書館活動の全ての状況を容易にする適切な技術的解決を見定め、適用することをも促進するべきである。

B. 学際的知識

論理的根拠：

アーキビストは、全ての専門家と同じように、彼ら自身の学問分野を越えたところからの知識、方法、そして考え方に依存しなければならない。アーカイブズ学の学際的な性質は、記録・書類の複雑さ、それらの作成の状況、数多くの潜在的用途、そしてアーキビストが果たすたくさんの役割から生じる。アーキビストは、これらの領域のいくつかか、あるいは全ての重要な理論、方法、そして実践に精通していることが必要である。

構成要素：

1. 情報技術

今日の社会の重要な記録・書類は、ますます電子的形式で作成され、再フォーマットされ、貯蔵され、記述され、そして検索されている。ネットワークを作ること、遠隔通信システム、ハードウェア、そしてソフトウェアを熟知していることは、多くの機関の環境の中で文書館機能を実行する基礎となる。学生は、利用者のために効果的なシステムを設計し開発するため、人間とコンピュータの相互関係も理解する必要がある。教科課程は、データベース管理、表計算シートの応用、情報構築、ウェブサイトの設計と製作、そしてあるいはデスクトップ・パブリッシングの技能を開発する機会を含むことができるだろう。ま

た価値があるのは、メタデータの理解、マークアップ言語の熟知、そして基礎的なプログラミング技能である。

2. 保存修復

保存問題におけるアーカイブズの中核的知識を越えたところの特有な学際的な知識は、保存修復の実践において必要とされるかもしれない。それは、化学的あるいは物理的方法によって資料を本来の形式で安定化させる、さまざまな介助的活動である。アーキビストは、保存措置の効果を判断したり、そして文書あるいは文書グループのための特定の保存措置を評価したりすることができる十分な知識をもつべきである。

3. 研究の設計と実行

研究の設計と実行について理解しておくことは、アーキビストが多種多様な研究者に効果的なサービスを提供したり、利用者の観点から図書館の働きを評価したりできるようにするために重要である。それはまたアーキビストが、彼ら自身の学問によって研究の状況を見極め、新しい研究に着手し、そしてアーカイブズ学の理論的・実証的な特徴を学術研究と融和させることができるようになることにも、生かされるのである。

4. 歴史学と歴史の方法

歴史学は、記録と書類が作成され、保持され、そして使用された状況、そして社会を形成している政治的、法的、経済的、社会的、そして文化的システムについての理解を与えてくれる。歴史学は、個人の活動はもちろん、組織やその機能の発展を理解することにおいて、そしてより効果的な記録史料の選別、評価、記述、そして利用者サービスに貢献することにおいて、アーキビストを援助する。アーキビストはまた、証拠とその生成の状況について見定める歴史学者の能力を発揮することも必要とされる。歴史の方法についての知識を持つことによって、アーキビストは多種類

の記録史料の研究利用を理解し、そしてより知識の豊富なレファレンスの援助を全ての利用者に提供することができるのである。

5. 管理学

アーキビストは、資源管理の仕方と系統的分析に基づいた意志決定の仕方を理解すべきである。彼らはしばしばプログラムの見通しと革新を明示しなければならない。このように、アーキビストは組織管理、戦略的立案、経営指導力、人的資源管理、財政管理、資源配分、資金調達、そして施設管理にかかわる基本原理を知っている必要がある。

6. 組織論

組織の発展、管理、文化の理論を研究することは、アーカイブズ教育において重要である。なぜならば、それは記録を作成する組織の発展と性質を理解する手段を提供し、学生がアーキビストとして雇われるであろう機関において成功する方法を理解することに役立つからである。組織の構造、制御、態度、そして組織文化の異なったモデルについての知識は、記録管理システムと、記録の作成、管理、そして使用の状況を理解するために、有益な見通しを提供する。

7. 教養科目と諸科学

理想的に言えば、アーカイブズ学に着手している人はすでに一般教養の幅広い背景をもっているであろう。にもかかわらず、そのような学問分野において大学院レベルの学習をすることは、直接にアーカイブズの知識を増大させることにつながる。特に価値があるのは、記録作成の状況と記録管理の実践について説明することを助ける分野の教育である。一科学や芸術だけでなく、社会学、哲学、政治学、法律学、会計学、文化人類学、そして経済学も含む。多くのアーカイブズ施設の所蔵資料は、特定の社会的な部門あるいは動向から発しているか、あるいはそれに結集しているのだから、一つかそれ以上の人文学、社

会科学、あるいは科学分野の専門化された知識は、何かの条件においては評価とレファレンス活動のための重要な財産になるかもしれない。

8. 関連専門職

アーキビストとアーカイブズ施設の活動は、記録情報の識別、保護、そして普及に関わる他のいくつかの専門職のそれと交わっている。これらには、図書館情報学、博物館学、オーラル・ヒストリー、歴史的保存 (historic preservation)、そして歴史編集 (historical editing) がある。たぶんこの特徴が最も一般的に重なり合う関係にあるのは、図書館情報学である；記録史料保存施設はしばしば図書館の中に位置づけられており、そこでアーキビストは、図書館専門職によって担われたコレクション構築、目録作成、そしてレファレンス業務に精通することによって恩恵を受けている。アーカイブズ管理は、図書館情報学を含めてどのような関連する専門職の補助としても見なされるものではない。しかし、関連領域の明確な目的と方法を照射することは、アーカイブズ学生にとって有利であろう。

III. 管理運営、教授団、そして構造基盤

A. 教授団

アーカイブズ学における大学院課程は、課程の目的を達成することのできる教授団を持たなければならない。教授団は、記録史料保存施設での業務を含む文書館での経験、技術認識、教育の有効性、分野内での研究経歴と出版、専門職組織への積極的な参加を備えているべきである。この指針に適合する課程は、最低でも一人の専任・終身在職の教授団構成員を持たなければならない。専任の教授団構成員は、所属組織の大学院教授団との取り決めに対して適格でなければならず一実質的に全ての場合、これは少なくとも PhD を持っていることと同等と見なしている一、そして出

版や専門職的業務を通してアーカイブズ知識に寄与することによって、専門家としての力量をはっきりと示さなくてはならない。教授団は、アーカイブズ学課程に必要とされる授業、研究そしてサービス業務の主要な役割を遂行するために、数においても専門の多様性においても十分なものでなければならない。

多くの場合、追加的な専任あるいは非常勤の教員が、課程の目的をかなえるために必要とされるだろう。非常勤あるいは補助的教員は、任命されたときには、専任教員の教育能力のバランスをとり、補完をする。課程は、補助的あるいは非常勤の教員が、優秀な教育資格認定書だけでなく、広範な実践経験と、出版や専門職活動により専門職の知識に貢献することを通して発揮される専門的知識・技術を持っている場合に、機能強化される。

B. 課程の所要期間

アーカイブズ学における大学院課程に適切な所要期間は、課程の使命、目標、そして目的から導き出すべきである。より広範な教育目標をもつ課程は、それらに到達するのにより長い期間を要するであろう。しかし、以上で要点を述べた教科課程の構成要素を適切に網羅するために、修士レベルの課程は、中核となるアーカイブズ知識に独占的にあてがわれる、最低でも18学期時間を、実際の経験を含めてとらなければならない。残りの単位は、学際的知識の領域あるいは選択科目におけるものであるべきである。

C. 学習過程の構成

アーカイブズ学の大学院教育は、教育指導と学習のいくつかの様式を必要とする。伝統的な科目学習は、学際的知識の多くの領域だけでなく、アーカイブズの理論、原理、そして方法論を教える最良の方法となる。実際の経験は、理論を仕事現場の環境に適用したり、

体験的な学習を提供したりするために必要である。学術研究は、学生がより深いところでその分野の特質を探究したり、独創的な研究で専門職の議論に貢献したりすることを可能にする。

1. 科目学習

科目学習は、大学院レベルのアーカイブズ教育にとって基本的な場である。科目形式(たとえば、講義、ゼミナール、ウェブを基にしたもの、遠隔地教育)は、伝えられる情報のレベルや検討している主題によって変化するであろう。科目は、学生の分析、執筆、そして話すことの技能を強化するとともに、これらの指針で要点を述べた知識領域について教えるために、さまざまな教育的技法を採用するべきである。

2. 実際的経験

科目学習で得られた知識は、経験に基づく学習を通して、最終的に職場に現出することになる。修士レベルのアーカイブズ教育の状況において、実際的経験は、実験的に理論や方法を発見する実習にはならない。むしろそれは、学生が自分の理解を現実の状況にあてはめることによってアーカイブズの原理の理解について確かめたり、アーカイブズの原理をその実践に適合するように調整する方法を理解したりすることを可能にする。実際的経験はまた、彼らが適用したアーカイブズ技能についての構造化されたフィードバックと、現場で活動しているアーキビストの指導を学生に提供するのである。

たとえ受け入れ機関が学生の成し遂げた仕事によって最終的に利益を得る場合であっても、どのような形の経験的学習も本来、学生の教育目標に資するものでなければならない。受け入れ機関のどのような実際的経験も、学生の研究プログラムに関連する構造化されたプログラムであるべきである。プログラムは、指定された受け入れ機関の実習監督者の

協力のもとに教員によって計画されるべきであり、定期的なフィードバックと評価の措置を含むべきである。

3. 学術研究

学術研究は、アーカイブズ学課程に不可欠な構成要素である。なぜならばそれは、学生がアーカイブズ問題について批判的かつ厳密に思考する能力と、彼らが文献を分析し、批判する力量を高めるからである。研究はまた、アーカイブズの学問に独創的な貢献をもたらしたり、専門職を活気づかせることを助長したりする可能性をも持つ。アーカイブズの研究は多くの形を取ることができ、人文・社会科学のさまざまな分野から方法論を取り入れることができる。ほとんどの以前のアーカイブズ研究は単独で行われてきたので、教育課程では学生に、アーカイブズ学生と他分野の学生の間はもちろん、アーカイブズ学生の中での共同研究をも導入し、奨励するべきである。

D. 物的資源と施設

教育・研究の施設と、学生や教員の必要に応じたサービスは、次の利用を含む。記録史料となる記録・書類の資料群；図書館とマルチメディア資源およびサービス；コンピュータと他の情報技術；そして単独そしてグループの研究のための宿泊等施設・設備。これらの施設は、適切に職員が配置され、便利であり、そして十分に利用しやすいものであるべきである。学生はまた、定期的かつ頻繁に記録史料と手稿資料の保存施設を利用する機会をも持つべきである。この利用は、クラスでの訪問、保存施設での課題研究、そして実務研修や他の実際的経験の機会の形式をとることができる。その課程が地域の施設と強固な関係を持っていることは、とりわけ重要である。

E. 管理運営、職業紹介、そして財政的援助

アーカイブズ学の大学院課程は、その長あるいは管理者を特定しなければならない。その課程の長には、課程がその使命、目標、そして目的を成し遂げることを確かなものにする責任がある。課程の長は教授会の専任・終身在職構成員あるいは本部の職員でなければならない。課程の目的と位置づけによって、彼あるいは彼女はディレクター、チェアパーソン、あるいはディーンの肩書きを持つことができる。

教授団は、精力的な就職斡旋サポートだけでなく、学生のために職業相談も提供しなければならない。職業相談は、アーカイブズ学生が就職する可能性のある場所が様々であり、制度上そして機能上で専門化が可能な種類が非常に多いので、絶対不可欠である。就職機会が広告募集され、あるいは公表される方法が種々であり、また専門家の推薦が重要であるので、学生たちは、就職市場に参加する際に、就職斡旋サポートの精力的な取り組みを必要とする。

親機関は、課程を開発し維持するのに十分な継続した財政支援を用意しなければならない。支援の基準については、財政的な実行可能性についての正当な期待値を規定しなければならない。そしてアーカイブズ教育課程の使命、目標、そして目的を遂行するために必要な教授団、管理と支援の職員、教育資源、図書館情報サービス、そして施設の数を考慮しなければならない。

IV. 結 論

これらの指針は、アーカイブズ学の大学院課程が首尾一貫し、自立し、そして中核となるアーカイブズの知識に基礎をおくために、最低限必要なことを定義している。この骨子の中で、より高度な教育機関は、修士の学位

を与える多種多様なプログラムをつくることのできる。この選択の幅は、学生に方向と重視の選択肢を提供し、そして究極的には、アーカイブズ教育に共通な核心のうちに多様性を取り入れることによって、専門職を豊かにするのである。そのような課程の卒業生は、政府あるいは機関の文書館から地方史協会や高度技術企業までの機関における、テキスト・アーカイブズから電子記録システムまでのさまざまな専門職の地位において、専門的職業に報いることが期待できる。アーキビストは、現代の情報サービスの状況ゆえにますます需要を増し、そしてアーカイブズ知識の有用性は、組織環境が多様化する中で認知度を高め続けている。これらの指針は、これらの新しい課題に応えるために必要な学術的な備えを定義すること、そして大学院アーカイブズ教育を提供する多様な機関のために強固な共通の基礎を用意することの両方を目的としているのである。

注

- (1) 「アーカイブズ学における大学院課程の指針」は、2002年1月にアメリカ・アーキビスト協会評議会によって承認された。これらの指針は、1994年に評議会によって採択された「アーカイブズ学大学院修士のためのカリキュラム開発の指針」に差し替わるものである。これらの指針によって、アメリカ・アーキビスト協会は、アーカイブズ学における首尾一貫した独自の大学院課程を開発することを支持するものである。SAAは、これらの指針で要点を述べた広がりや性質を持つ課程が、アーキビストのための就職前専門職教育の最も良い形式であると信ずる。このため、これらの指針は、1977年、1988年、そして1994年に公表したアーカイブズ教育についての以前の文書にとって代わるものとする。
- (2) アーカイブズの記録と書類は、物理的フォーマットや作成者（公的あるいは私的）の種類に関わりなく、個人あるいは組織がその活動を遂行することによって作成され、あるいは受け取られた、そして保全と未来の使用のために取っておかれた記録情報である。アーカイブズの記録・書類は、社会的そして文化的記憶のためのみならず、証拠

と説明責任のためにもまた役立つものである。これらの指針において、記録と書類という言葉づかいは、全ての媒体（紙、デジタルの、音の、そして視覚の）とあらゆるフォーマットで組織や個人が産み出した文書証拠を包含するために用いている。

- (3) 北アメリカにおけるアーカイブズ教育課程の情報については、そのような課程の要覧を含め、次のSAAウェブ・サイトを参照されたい。

<http://www.archivists.org>.

- (4) アーカイブズ教育の学際的特徴は、図書館情報大学院、歴史学部、行政学大学院、法科大学院、あるいは経営学大学院などのような、さまざまな環境に課程を設置することを可能にしている。それに関して、アーカイブズ領域の学際性を強調すれば、二つの学部が合同で課程を運営することもまたできるであろう。

- (5) 認定アーキビスト協会は、アーカイブズ知識の分野について便利な一覧表を開発した。『アーキビスト認定のためのハンドブック』の「役割略図」部分を、次のオンライン版で参照されたい。

<http://www.certifiedarchivists.org>.

* * * * *

- * 1 この資料の原題は、Guidelines for a Graduate Program in Archival Studiesである。オンライン版は、次のサイトにおいて使用できる。

<http://www.archivists.org/prof-education/ed-guidelines.asp>

- * 2 アメリカ・アーキビスト協会との取り決めにしたがって、次の二点を明記する。

Translated, published, and distributed by permission of the Society of American Archivists, www.archivists.org.

(この資料は、) アメリカ・アーキビスト協会 (www.archivists.org) の許可を得て翻訳、出版、そして配布されている。

The copyright of this content in English and in the Japanese translation is held by the Society of American Archivists.

英文と日本語翻訳文における本内容の著作権は、アメリカ・アーキビスト協会に帰属する。